

授業科目名	【G】 国際経済論Ⅱ	区分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2		
科目区分	専門科目:教科及び教科の指導法に関する科目(一・一・公民・一)							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【G】 教員の免許状取得のための(一・一・公民選択・一)科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項:「社会学、経済学(国際経済を含む)」(高一種免公民)							
サブタイトル	国際経済の諸問題を、自ら調べ発表しレポートを作成する。			担当者	小川 竜明			
授業概要	【概要】	<p>国際経済は一般に、[1]人の移動(観光、移民などの労働力)、[2]財の移動(貿易、国際物流)、[3]金の移動(資本)、[4]情報の流通から成り、これらの取引を通じ外国との結びつきが強化される(or弱体化する)ことで、とりわけ自国の経済にどのような効果が生まれるか(orどのような影響を受けるか)を明らかにする学問である。本講座を通じて、国際労働移動、貿易、国際資本移動、情報のグローバル化についての理解を深め、世の中をより良くする一端を担う思考力を涵養していきたい。</p> <p>例年、国際経済論Ⅱの履修者は少数なので、その利点を活かし、2名～最大5名程度でグループをつくり、グループ単位で学生自ら調査研究し発表するという形式を採用する。</p> <p>(1)テキストの輪読を通じて問題意識を醸成する。</p> <p>(2)学生の間で関心のあるテーマを出し合い、授業時間外に図書館やインターネット等を使って調査をする。</p> <p>(3)調査した内容を発表する。発表後にレポートを作成する。</p> <p>上の(1)～(3)を1サイクルとし、「人」「財」「金」「情報」に関して調査及び発表を行う。</p> <p>就職活動を控える3年生にとっては前で発表するトレーニングにもなる。また4年生にとっては大学生活最後の半期を「猛勉強」して過ごせば、その報いは決して小さくないはずだ。とてもハードな授業になるが、「1つの授業でこれほど勉強(準備)したことがない」という爽快感を互いに得ようではないか。</p>						
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際経済に関する様々な経済事象(問題)について、自分の頭で考え、自分なりの答えを出し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようになる。</li> <li>・諸問題の考察を通じ、論理的に考えるコツや相手に効果的に伝える方法を習得する。</li> <li>・他の学生グループの報告を聞き、物事を深く多面的にとらえられるようになる。</li> </ul>						
履修条件	・履修する学生は、学期中に複数回の調査報告を行う。調査方法や報告の方法等については第1回目の授業で話すので、必ず第1回目の授業に出席すること。							
アクティブラーニングの方法	【-】	事前学習型	【-】	反転授業	【-】	調査学習	【-】	フィールドワーク
	【-】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【-】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【-】	模擬授業	【-】	PBL	【-】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)						
他科目との関連性	<p>①あらかじめ履修を済ませてほしい科目:経済学Ⅰ、経済学Ⅱ、国際経済論Ⅰ</p> <p>②同時に履修することが望ましい科目:特になし</p> <p>③当該科目を履修した後で履修してほしい科目:特になし</p>							
教科書	教科書は使用しない。							
参考書	<p>(国際経済全般)齊藤誠『教養としてのグローバル経済』有斐閣、2021年。</p> <p>〈グローバル化〉マルク・レヴィンソン(田辺希久子翻訳)『物流の世界史』ダイヤモンド社、2022年。</p> <p>〈人の移動〉永吉希久子『移民と日本社会—データで読み解く実態と将来像』中央公論新社、2020年。</p> <p>〈貿易〉大川良文『入門 国際経済学』中央経済社、2019年。</p> <p>〈国際金融〉西村陽造・佐久間浩司『新・国際金融のしくみ』有斐閣、2020年。 その他、授業中に適宜紹介する。</p>							
評価方法	<p>平常点(60点)と調査報告書(レポート)(40点)により評価する。</p> <p>・平常点はグループ内での貢献度、及び他の学生グループの研究発表に対して積極的に質問をするなどの授業貢献度(発表1回につき最高10点×6回)。</p> <p>・グループワークが中心なので、授業時間中の話し合いの様子や、誰がどのような役割を担ったか(どの部分を担当したか)を細かくチェックする。</p> <p>・研究発表後、他の学生の指摘や質問に対する回答を加えるなどして調査報告書(レポート)を個別に作成(最高10点×4回)。</p>							
フィードバック方法	<p>・研究発表時に、発表の内容や方法等について気付いた点(直した方が良いと思われる点)があれば指摘する。</p> <p>・提出された調査報告書(レポート)を読み、構成や語彙などの面で気付いた点があれば指摘する。</p>							
評価基準	<p>・授業内容について、これをよく理解し、答案等に自分の言葉で適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。</p> <p>・単元の内容についての理解や表現に、何らかの不適切ないし若干不足する点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。</p> <p>・単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。</p> <p>・病欠などのやむを得ない理由を除き、研究発表日の欠席が3回以上、または調査報告書(レポート)の未提出が2回以上など、評価不能の場合は「F」とする。</p>							

授業 科目名	【G】 国際経済論Ⅱ	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
		選 択				
授業回数	授業内容					
1	オリエンテーション(履修上の注意など)、【イントロダクション】グローバル化の効果と影響 予習: シラバスを読み、疑問に思った点などを余白にメモしておく(30分) 復習: 授業の説明を100%理解する(150分)					
2	【人のグローバル化(1)】国境を越えて人が移動すると生じる効果や影響を考察する 予習: 第1回に配付した資料を熟読する(30分) 復習: 関心のあるテーマを見つける(150分)					
3	【人のグローバル化(2)】グループワーク(調査報告に向け話し合いをし、調査内容を分担する) 予習: グループワークの下準備をする(30分) 復習: 報告に向けた準備を行う(150分)					
4	【人のグローバル化(3)】調査報告(1回目) 予習: 資料を作成し調査報告に備える(90分) 復習: 発表後に指摘された点などを踏まえ追加調査を行う(90分)					
5	【人のグローバル化(4)】調査報告(2回目) 予習: 資料に修正を施し調査報告に備える(60分) 復習: 調査報告書(レポート)を作成し提出する(120分)					
6	【財とサービスのグローバル化(1)】国境を越えて財やサービスが移動すると生じる効果や影響を考察する 予習: 第5回に配付した資料を熟読する(30分) 復習: 関心のあるテーマを見つける(150分)					
7	【財とサービスのグローバル化(2)】グループワーク(調査報告に向け話し合いをし、調査内容を分担する) 予習: グループワークの下準備をする(30分) 復習: 報告に向けた準備を行う(150分)					
8	【財とサービスのグローバル化(3)】調査報告(1回目) 予習: 資料を作成し調査報告に備える(90分) 復習: 発表後に指摘された点などを踏まえ追加調査を行う(90分)					
9	【財とサービスのグローバル化(4)】調査報告(2回目) 予習: 資料に修正を施し調査報告に備える(60分) 復習: 調査報告書(レポート)を作成し提出する(120分)					
10	【金融と資本のグローバル化(1)】国境を越えてお金が移動すると生じる効果や影響を考察する 予習: 第9回に配付した資料を熟読する(30分) 復習: 関心のあるテーマを見つける(150分)					
11	【金融と資本のグローバル化(2)】グループワーク(調査報告に向け話し合いをし、調査内容を分担する) 予習: グループワークの下準備をする(30分) 復習: 調査報告に向けた準備を行う(150分)					
12	【金融と資本のグローバル化(3)】調査報告 予習: 資料を作成し研究発表に備える(90分) 復習: 調査報告書(レポート)の作成、提出(90分)					
13	【情報のグローバル化(1)】国境を越えて情報が移動すると生じる効果や影響を考察する 予習: 第12回に配付した資料を熟読する(30分) 復習: 関心のあるテーマを見つける(150分)					
14	【情報のグローバル化(2)】グループワーク(調査報告に向け話し合いをし、調査内容を分担する) 予習: グループワークの下準備をする(30分) 復習: 調査報告に向けた準備を行う(150分)					
15	【情報のグローバル化(3)】調査報告、授業の総括 予習: 資料を作成し研究発表に備える(180分) 復習: 調査報告書(レポート)を作成し提出する					
その他	・履修者の数や受講態度を見て、内容を一部変更する場合があるが、授業方法については変更しない。 ・学生の関心の大きさに応じて、授業内容にある「人」「財」「資本」「情報」の順序は変更することがある。					